

敦賀ふるさとマップ(建造物編)

—世界に開かれた鉄道と港の町 敦賀—



世界へつながる

ユダヤ人・ポーランド人など
世界の人々と文化の交流

北前船航路

昆布・ニシン・茶などの交易

北前船とは

北前船は「動く総合商社」といわれ、香港等各地で物産購入と販賣を繰り返して、利益を上げていく船である。18世紀の終わりがころから盛んになり、明治時代まで続いた。北海道と日本海沿岸各地と大阪を直接結ぶ航路だった。敦賀はその航路における重要な寄港地だった。敦賀には陸揚（にしん）が入り、茶・木綿類などが運び出された。昆布加工は敦賀の名産となっている。

欧亜国際連絡列車とは

明治45年(1912)6月15日から、新橋駅(東京)ー金ヶ崎駅(敦賀)間に直通列車が運行され、敦賀ーワラゾフストク航路、シベリア鉄道を使いヨーロッパへと向かう国際連絡列車。当時最短(11日)でヨーロッパへ到着できるルートであった。



当時使用されていた切符、東京ーペルリン(ドイツ)とあり、東京から敦賀への経路連絡が記載されている。

敦賀市制への変遷

昭和12年(1937)に松原町と敦賀町が合併し「敦賀市」が制定された(第33回)。
昭和30年(1955)にはさらに近隣の東浦村、東郷村、中郷村、愛発村、粟野村と合併し現在の敦賀市(第40回)となった。
平成29年(2017)に市制80周年をむかえた。

建造物分布地図

時代	主な出来事	つるがの歴史と文化財
縄文時代	縄文土器のいない時代	縄文土器が作られる(東郷石土土器) 船川(峡谷遺跡)
弥生時代	米作りが始まる	吉河遺跡 舞鶴遺跡(高地性集落)
古墳時代	派馬台國の卑弥呼が魏に使者をおくる	日向山1号墳
奈良時代	唐三「武」が中国の南朝に使臣をおくる	仏教が伝わります
平安時代	源氏平家源氏が争い、白河院の戦い	源氏平家源氏が争い、白河院の戦い
鎌倉時代	源頼朝が平氏を滅ぼす	源頼朝が平氏を滅ぼす
室町時代	足利義満が北条氏を滅ぼす	足利義満が北条氏を滅ぼす
戦国時代	織田信長が豊臣秀吉を討つ	織田信長が豊臣秀吉を討つ
江戸時代	徳川幕府が成立する	徳川幕府が成立する
明治時代	大正時代	昭和時代

1 敦賀駅の変遷

気比神宮前に 初代敦賀駅

江戸時代に北前船の寄港地として栄えた敦賀は、日本海側で最初に鉄道が敷かれた。初代敦賀駅は氣比神宮前に作られた。当時、敦賀港岸壁にあった金ヶ崎駅から、神宮前の初代敦賀駅、現在の国8号線から入る線路が延びてきた。

古来から大陸の玄関口として栄えた敦賀は、京などに通じる交通の要衝で、鉄道と港とともに敦賀の近代発展を支えた。

2 敦賀港のあゆみ

港の夜明け

敦賀港は古くから、京都や大阪に物資を運ぶ重要な港であった。

3 気比神宮(大宝2年)

7柱を奉る 北陸道の鎮守

市民に「けいさん」の愛称で親しまれている。大宝2年(702)の建立と伝えられており、伊香沙都姫・神神大黒姫を祀っている。高さ約11mの大鳥居(重要文化財)は「日本三大大木造鳥居」の一つである。

4 常宮神社(8世紀頃)

国宝が眠る 安産の神様

御祭神である神功皇后が、常宮で慶勝を付けて筑紫の神天孫を出産したといわれることから、常宮神社は安産の神様を祀る神社として信仰されている。また、この神社に納められている鐘は、今から1300年以上前で作られたもので国指定されている。

5 西福寺(江戸時代)

善願庵の美しい絶景 重要文化財の宝庫

正平23年(1368)、浄土宗の良如上人が建立した寺。徳川家康を父にもつ藩井城主・結城秀康公の菩提寺として建てられた。1400年にも及ぶ善願庵は、国の名勝に指定されており、四季折々に異なる美しい景色が見られる。

6 柴田氏庭園(江戸時代)

豪傑が藩主をもてなした庭園

兼野・野区野の有力な豪傑である柴田氏が小浜藩主を迎えるために建てた。野区山を背景とする庭園は、とても美しく、参勤交代の時には小浜藩主の休憩所に使われた。庭園からは小浜湾が一望でき、国の名勝に指定されている。

7 足田舟川(江戸時代)

長年の夢 一部実現

日本海と琵琶湖を運河で結ぶとする計画は、古くからあった。江戸時代、文化13年(1816)に、ようやく小浜藩の手により、足田舟川が完成した。足田舟川は、足田舟川に架かる大木造大鳥居を経て大浦(琵琶湖北岸)に注がれた。

8 金崎宮(明治23年)

戦国時代の 歴史的お城

明治23年(1890)創建。明治7年(1876)恒松、藤田両藩を守護した新田藩の居城で、足利重信が築いた古戦場である。その後、徳川幕府に属する。戦国時代には、前斎義隆を擁護するため藤田藩、別所(豊後)秀吉、徳川家康が此地に立寄った。その時の遺構は「虎ヶ崎の土塁」と呼ばれ、有名な史跡である。

9 旧北陸線トンネル群(明治29年)

旧北陸線の難所を 物語る建造物

敦賀一帯の旧北陸線は、明治29年(1896)に開通した。敦賀、今庄間は山が続き一番の難所で、12のトンネルが設置された。けいらい線路を敷設するために、急勾配をシフトアップに運転して懸架スライダックがあった。廃線になった線路跡は現在、道路として使用されている。

10 歩兵第19連隊営門歩哨舎(明治31年)

連隊の入り口を 警備する歩哨舎

陸軍歩兵第19連隊は、明治31年(1898)に敦賀(現敦賀市野田山(今の根ヶ崎))に移された。敦賀にはまだこの他に、練兵場・射撃場・演習場・陸軍病院なども置かれていた。

11 敦賀赤レンガ倉庫(明治38年)

世界に開かれた敦賀港の象徴

明治38年(1905)に外国人技術によって設計された石造り倉庫である。現在の倉庫は、平成23年(2011)に国の登録有形文化財になった。

12 旧大和田銀行本店(昭和2年)

みなと敦賀の 発展を伝える 重要文化財

昭和2年(1927)に竣工した旧大和田銀行本店は、敦賀の発展を象徴した建造物である。敦賀の発展に貢献した大和田氏の思想が反映された大規模な洋風建築で、建設当初は銀行の支店であった。港町敦賀の歴史を象徴する近代建造物である。

10 歩兵第19連隊営門歩哨舎(明治31年)

連隊の入り口を 警備する歩哨舎

陸軍歩兵第19連隊は、明治31年(1898)に敦賀(現敦賀市野田山(今の根ヶ崎))に移された。敦賀にはまだこの他に、練兵場・射撃場・演習場・陸軍病院なども置かれていた。

11 敦賀赤レンガ倉庫(明治38年)

世界に開かれた敦賀港の象徴

明治38年(1905)に外国人技術によって設計された石造り倉庫である。現在の倉庫は、平成23年(2011)に国の登録有形文化財になった。

12 旧大和田銀行本店(昭和2年)

みなと敦賀の 発展を伝える 重要文化財

昭和2年(1927)に竣工した旧大和田銀行本店は、敦賀の発展を象徴した建造物である。敦賀の発展に貢献した大和田氏の思想が反映された大規模な洋風建築で、建設当初は銀行の支店であった。港町敦賀の歴史を象徴する近代建造物である。

まぼろしの松原客館(平安時代)

平安時代の おもてなし施設

平安時代前期の9世紀頃、海防の要所(海防使)等を迎えるために設置されたと考えられる唐風施設である。現在の敦賀市・氣比の松原辺りにあったのではないかとされているが、考古学的な遺構がなく、所在地は明らかでない。

クイズ①

図書館近くの国道8号線沿いに線路が通っていたことを示す「めがね橋」は、どこにある？

クイズ②

西福寺の良如上人が龍眼に刺さった木の実はなんですか？

クイズ③

柴田氏庭園の名前となっている「甘菜(かんそう)」は何の木？ A ハギ B マツ C クスノキ D ヤマモモ

クイズ④

大和田銀行の建上では、あることがおこなわれていました。それは、なんですか？

クイズ⑤

大正時代の 重要文化財

クイズ⑥

大正時代の 重要文化財